

三菱自動車からのお知らせ

平成24年度(2012年度)のご報告

2012年4月1日~2013年3月31日

ルート
Route



Drive@earth



社長インタビュー

選択と集中を加速させ、安定した収益体質への改革に取り組み、復配を目指します。

MITSUBISHI MOTORS
PRESIDENT

Osamu Masuko



Question.1

中期経営計画「JUMP 2013」最終年度の利益計画が計画策定時の目標を上回っています。

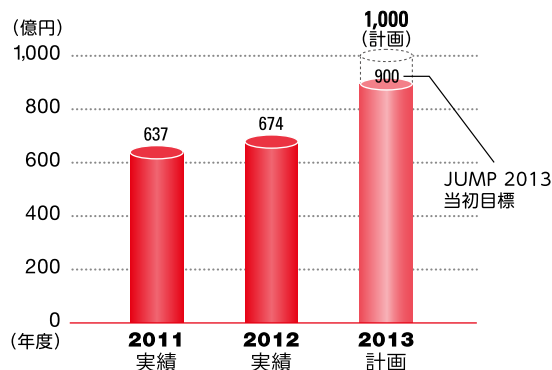
これまでの取り組みで会社の弱いところを理解し、補強もしつつ力がついてきた手応えを感じています。リーマンショック、東日本大震災、タイの洪水、欧州債務危機、長引く円高などありましたが、『ミラージュ』や『アウトランダー』の新商品投入に加え、米国工場への輸出モデル投入、欧州工場の売却など先進国での生産能力適正化と新興国での生産体制強化に努めてまいりました。

私は常々「JUMP 2013」の最終年度に復配の目処をつけたいと申し上げてきましたが、今回の目標は、そのために当然達成しなければならないと考えています。さらに、2013年度は最終利益目標の達成だけでなく、三菱自動車が安定した収益を生み出せる構造改革をなしえたと、市場からも評価されなければなりません。このためにも、これまでに行ってきた構造改革、選択と集中

を加速させていきます。

2012年度は増収増益を達成しながらも、株主の皆様への配当につきましては、実施を見送らせていただくことになり、大変申し訳なく思っております。

営業利益推移



Question.2

為替の円高水準が修正されてきました。 海外にシフトした生産は国内に 戻るのでしょうか？

円高水準が修正されてもこれまでの考え方を考えるつもりはありません。国内は人口が減少していく中で、自動車需要の拡大を期待することは極めて難しいと思われ、国内生産能力は現状レベルを維持していくことが精一杯と考えています。

一方、需要の増加に伴って増産のチャンスがあるのは海外、とりわけ新興国です。従って、新興国で生産の強化を推し進めることとなりますが、これは消費地に近いところで行くメリットを最大限に享受することにもつながります。



Question.3

中期経営計画の最終年度となる今期の取り組みについて 教えてください。

「JUMP 2013」の総仕上げの年となる今期は、海外では、『ミラージュ』、『アウトランダー』などの新型車を世界展開し、販売台数拡大を計画しています。特に、タイ、中国、ロシアといった新興市場では現地生産モデルを追加し、販売台数を増やしていきます。一方、国内では、製造工場のコスト競争力強化を図りながら、新型軽自動車の投入により販売台数も伸ばします。

販売台数の増加や為替の好転などを前提に、引き続き増収増益を計画しますが、その実現に向け待ったなしの経営課題と認識している品質改革も着実に進め、復配を目指していきます。

同時に、今期は次期中期経営計画へのつなぎの年度という意味でも大変重要です。今年度中に新しい経営計画を立案し、今後の成長戦略を説明したいと考えています。

三菱自動車企業理念

大切なお客様と社会のために、走る喜びと確かな安心を、
こだわりをもって、提供し続けます。

Question.4

「アセアンチャレンジ12」プロジェクトもありますが、新興市場での今後の取り組みを教えてください。

当社は成長力の高いアセアン地域で大きな強みを持っています。「アセアンチャレンジ12」では2016年3月期のアセアン5カ国(タイ、インドネシア、フィリピン、マレーシア、ベトナム)での市場シェア12%の達成を目指しています。中でも、2012年度に初めて販売台数で日本を抜いてトップとなったタイでは、今期、新型セダン『アトラージュ』を新たに生産・販売開始するなど、現地生産能力を増強していきます。また、タイに次ぐアセアン重要市場として、ミッドサイズSUV『アウトランダースポーツ』の現地生産を開始したインドネシア、『アトラージュ』の投入を計画しているフィリピンでの拡販にも注力していきます。

一方、中国では、昨年11月には広汽三菱でコンパクトSUV『ASX』の生産が始まっています。

また、中国とロシアでは、本年7月より『パジェロスポーツ』の現地生産を開始予定です。ブラジルでは、本年7月に『ASX』の現地組立を開始しますが、その後も、現地生産化や部品調達率の向上を推進し、事業を強化していきます。



タイでエコカー認定された
新型セダン「アトラージュ」



中国・ロシアで生産される
「パジェロスポーツ」

Question.5

日本をはじめとする成熟市場ではどうですか。

日本では、日産自動車との合併会社であるNMKVによって企画・開発された第1弾モデル・新型『eKワゴン』と『eKカスタム』を本年6月に発売し、軽自動車の商品ラインアップを強化します。当社と日産自動車の強みを融合したこのモデルは、高い商品競争力を備えていると信じています。

また、2014年初頭には、第2弾として、スーパーハイトワゴンタイプの軽自動車も投入する予定です。

欧州、北米においても、『ミラージュ』『アウトランダー』の投入などにより、販売台数を伸ばしていきます。

Question. 6

軽自動車に関して、4回も同じ件でリコールを届け出ています。品質改革に対する取り組みを教えてください。

当社は2012年12月、軽自動車のエンジンオイル漏れ不具合について、4回目となるリコールを国土交通省に届け出し、その経緯などの社内検証結果も同時に報告いたしました。検証では、法規違反はなかったものの、市場措置に対する姿勢やその検討プロセスにおける判断基準が明確でなかったこと、技術的検証に時間を費やし、お客様が被る迷惑への配慮が不足しているなど、「お客様の安全・安心」を第一に考える“顧客視点”の不徹底が明らかになりました。

これを受け、同省による立ち入り検査も受けています。お客様はもちろん、株主の皆様にも大変なご心配、ご迷惑をおかけし、深くお詫び申し上げます。

当社といたしましては、本件を深く反省するとともに、“顧客視点”を全社に再徹底するため、不退换の決意で、品質にかかわるすべての業務プロセスを見直す改革活動「カスタマーファースト・プログラム」に取り組んでいます。この改革活動では「品質」、「風土」、「業務品質」の3つの分野の改革チームを設け、それぞれ開発、生産、国内営業の各統括部門長がチームリーダーとして、改善計画の立案と実行の責任を負います。さらに、「カスタマーファースト・プログラム」の実施状況をモニタリングする社長直轄の「改革促進委員会」を設置し、活動を確実にフォローする体制としています。

これからも皆様からの全幅の信頼をいただけるよう全力を尽くしてまいりますので、引き続きご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2013年6月
取締役社長

益子 修



期待の新車ご紹介

eKワゴン & eKカスタム誕生

これからの「いい軽!」を カタチにしました。

新型軽自動車、『eKワゴン』と『eKカスタム』が誕生しました。商品コンセプトは「Just Your Partner」とし、気軽に、長く付き合える、自分らしいカーライフを送れるクルマとしています。

これからの軽に求められる、軽自動車の枠を超える上質感(elegant)、運転のしやすい快適空間(easy & comfort)、優れた燃費性能(eco)の3つの「e(イー)」をカタチにするため、すべてを一新し、三菱自動車らしいクルマをつくり上げました。



eKワゴン



eKカスタム

プロジェクト責任者からのメッセージ。

この新型『eKワゴン』『eKカスタム』は、私どもの50年以上にわたる軽自動車づくりのノウハウをつぎ込み、今の時代に求められる「いい軽!」を追求して企画・開発。軽自動車の経済性や扱いやすさといった普遍的な価値に、軽自動車の枠を超えるクオリティを与えた、いわば、「ジャパニーズ・ミニ」に仕上がったと自負しております。



プロダクト・エグゼクティブ
秋田 義雄

@earth TECHNOLOGY

アウトランダー



「JNCAPファイブスター賞」、「JNCAP大賞」を受賞!

自動車の安全性能を試験・評価する2012年度自動車アセスメント(JNCAP^{※1})において、新型『アウトランダー』が最高評価となる「新・安全性能総合評価ファイブスター賞(JNCAPファイブスター賞)」を受賞しました。また、JNCAPファイブスター賞対象車のうち、評価得点がこれまでの最高得点を超えたクルマに与えられる「JNCAP大賞」も受賞しました。

新型『アウトランダー』は、先進の予防安全技術「e-Assist(イーアシスト)」・衝突安全強化ボディ「RISE」・7つのSRSエアバッグ等による優れた安全性能、低燃費技術・軽量化等による高い環境性能、外観・内装などの全体的な上質感と走りや使い勝手など、様々な性能を高次元で調和させています。今回の受賞は、“確かな安心”を実現する衝突安全技術が高く評価されたものといえます。

※1 JNCAPは、国土交通省と独立行政法人自動車事故対策機構(NASVA)によって行われる自動車アセスメントの略称。



記念トロフィーを受けとる
岡本 金典プロダクト・エグゼクティブ

「@earth TECHNOLOGY」を展開します。

当社は「地球を走る、地球と生きる」をテーマに2008年から、「地球環境に配慮しながら地球上の様々な地域のお客様に走る喜びを提供する」という、企業姿勢を表現した「ドライブアットアース」を展開しています。

そして今、「ドライブアットアース」を具現化する当社の商品・技術の総称として「**アットアーステクノロジー**」を展開しています。「**アットアーステクノロジー**」は、「環境への貢献」「走る喜び」「確かな安心」を当社の技術展開における3本柱と位置づけ、これらの先進技術で具現化する「走る喜びと高い環境性能を両立した次世代先進テクノロジー」の総称です。

国内生産体制の構造改革

海外工場に負けないコスト競争力を確保します。

海外では、2012年度に発売した新型『ミラージュ』・『アウトランダー』の世界展開と、今後も需要の拡大が期待できるタイ・中国・ロシア・ブラジルなどで現地生産モデルを追加する計画です。その一方で、国内の製造工場では海外工場に負けないコスト競争力をつけるために構造改革に取り組み、海外生産事業における技術および人財を供給する重要拠点として今後も国内生産を維持していきます。

水島製作所

2013年5月から日産自動車との協業による新型軽自動車を乗用車ラインに投入し、2直体制で生産性を大幅にアップしました。また、2014年1月には車体組立ラインを、現在の4ラインから2ラインに集約し、空いたスペースを活用して部品の内製化を拡大するなどさらなる生産性向上を図ります。このような取り組みにより、前年比50%増の34万9千台の生産対応を計画しています。

名古屋製作所

アウトランダーPHEVをお待ちいただいているお客様への対応として、現在の月産2千台から月産4千台までの能力増強を準備します。

また、PHEV用電池およびモーター搭載作業をサブラインからメインラインへ集約し、生産性向上を図ります。

水島製作所で新型軽自動車の量産がスタートしました。

2013年5月20日に執り行われた三菱自動車『eKワゴン』、『eKカスタム』、日産自動車『DAYZ(デイズ)』、『DAYZ(デイズ)ハイウェイスター』の量産開始式典で、三菱自動車 益子社長、日産自動車 志賀COO、NMKV 遠藤CEO、地元来賓の方々が列席のもと、同社のプロジェクトにかかわった約350名の3社の社員が、2011年のNMKV設立以来、2年を経て量産ラインで製造された車の前で、さらなる発展を誓いました。



量産開始式典での
日産自動車 志賀COOと三菱自動車 益子社長

2012年度株主工場見学会のご報告

パワートレイン製作所

来年度販売を開始する次期ピックアップトラック用クリーンディーゼルエンジンの量産に向けて、主要エンジン部品(3C部品)の機械加工ラインを増強し、既存のクリーンディーゼルと合わせ、年間6万台から12万台とします。

パジェロ製造

『デリカD:5』のアセアン地域への輸出拡大を検討しております。



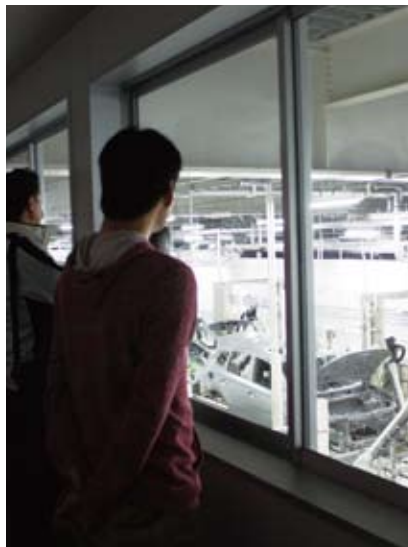
プロジェクトにかかわったスタッフ

3日間で約200名の皆様にご参加いただきました。

2013年3月、名古屋製作所岡崎工場(愛知県)において株主向けの工場見学会を3日間実施し、多数のご応募の中から抽選で選ばれた合計約200名の皆様にご参加いただきました。

当日は当社役員から経営概況などを説明した後、塗装工場、車体工場、スマートグリッド実証実験装置「M-tech Labo」などを見学いただいたほか、普段は一般の方が立ち入ることができない高速周回路(テストコース)での新型車による走行も体験していただきました。

皆様に当社をより深くご理解いただくため、今後もこのようなイベントを継続的に実施していく予定です。



2012年度の決算の概要

欧州債務問題長期化など厳しい事業環境ながらも増収増益。

2012年度の売上高は、卸売台数の増加などにより前年度比78億円増の1兆8,151億円となりました。営業利益は、市場措置関連費用や販売費用の増加の一方、台数・車種構成等の改善やコスト低減などにより、37億円増の674億円となりました。経常利益は939億円、当期純利益は380億円といずれも前年度実績を上回りました。

販売台数は日本では、登録車は前年度並みとなりましたが、軽自動車で減少し、12%の減少となりました。

北米は、8万5千台と前年度比20%の減少。このうち米国では、『アウトランダースポーツ』は15%上回る販売台数となりましたが、北米専用モデルの販売台数が減少したことなどにより、5万7千台と前年度比24%の減少となりました。

欧州は、ロシアでは新型『アウトランダー』の投入などにより8万台と11%上回りました。一方、西欧では7万8千台と29%の大幅減となり、欧州全体では17%の減少となりました。

アジア・その他地域は、58万7千台と12%の増加となりました。うち中国における販売台数は徐々に回復を見せているものの、33%の減少。アセアンでは、前年度比で43%増加。このうちタイでは93%増加の14万2千台となりました。豪州・ニュージーランドは、4%の減少となりました。中南米は2%の増加、このうち最大市場のブラジルでは6万1千台と前年度比で9%増加しました。中東・アフリカでは8%の増加となりました。

売上高



営業利益



当期純利益



*当資料に掲載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、掲載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証したりするものではありません。

新型車投入とグローバル展開で、増収増益を目指す。

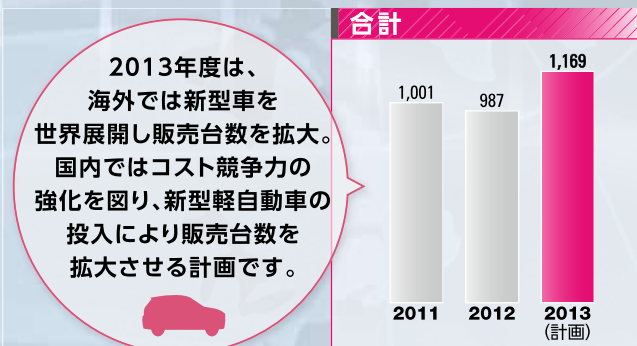
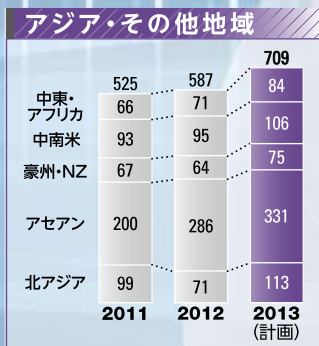
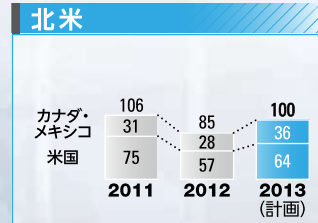
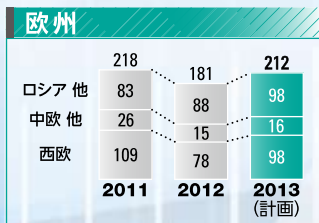
2013年度の地域別販売台数計画は、全地域で前年度を上回る計画としており、合計では、前年度比18万2千台増加の116万9千台としています。

日本では新型軽自動車『eKワゴン』『eKカスタム』を投入することなどにより、前年度比1万4千台増加の14万8千台。北米では、『アウトランダースポーツ』を軸に、今年度投入予定の『アウトランダー』『ミラージュ』の増販により前年度比1万5千台増加の10万台の販売を計画しています。

欧州では、ロシアや西欧で販売を伸ばし、前年度比3万1千台増加の21万2千台。アジア・その他地域では、北アジア、アセアンを中心に台数を積み上げ、前年度比12万2千台増加の70万9千台の計画としています。

このような台数計画を踏まえ、通期業績見通しとして、売上高は2兆2,700億円、営業利益は1,000億円、経常利益は900億円、当期純利益は500億円と前年度対比で経常利益を除き増収増益の計画としました。

地域別販売台数 (単位:千台/年度)



2012年度連結財務諸表(要旨)

□ 連結貸借対照表

(百万円)

科 目	前年度末 (平成24年3月31日現在)	当年度末 (平成25年3月31日現在)	科 目	前年度末 (平成24年3月31日現在)	当年度末 (平成25年3月31日現在)
(資産の部)			(負債の部)		
流動資産			流動負債		
現金及び預金	311,631	409,509	支払手形及び買掛金	317,355	313,810
受取手形及び売掛金	146,182	149,555	短期借入金	186,690	257,256
商品及び製品	118,788	143,046	その他	199,411	216,180
仕掛品	20,088	33,979	流動負債合計	703,457	787,248
原材料及び貯蔵品	48,586	25,295	固定負債		
その他	121,161	123,906	長期借入金	161,390	107,125
貸倒引当金	△7,263	△6,312	その他	190,838	207,207
流動資産合計	759,175	878,980	固定負債合計	352,228	314,333
固定資産			負債合計		
有形固定資産	376,736	386,903		1,055,686	1,101,581
無形固定資産	11,669	12,894	(純資産の部)		
投資その他の資産	173,724	174,031	株主資本		
固定資産合計	562,130	573,829	資本金	657,355	657,355
資産合計			資本剰余金	432,666	432,666
	1,321,306	1,452,809	利益剰余金	△726,028	△688,049
			自己株式	△15	△217
			株主資本合計	363,976	401,754
			その他の包括利益累計額合計	△106,982	△61,556
			少数株主持分	8,626	11,030
			純資産合計	265,620	351,227
			負債純資産合計		
				1,321,306	1,452,809

□ 連結損益計算書

(百万円)

科 目	前年度	当年度
	(平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)	(平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)
売上高	1,807,293	1,815,113
売上原価	1,487,267	1,475,141
売上総利益	320,025	339,971
販売費及び一般管理費	256,350	272,589
営業利益	63,674	67,382
営業外収益	13,409	42,152
営業外費用	16,180	15,631
経常利益	60,904	93,903
特別利益	927	12,022
特別損失	20,212	36,529
税金等調整前 当期純利益	41,618	69,396
法人税等合計	15,239	27,769
少数株主損益調整前 当期純利益	26,378	41,627
少数株主利益	2,450	3,648
当期純利益	23,928	37,978

□ 連結キャッシュ・フロー計算書

(百万円)

科 目	前年度	当年度
	(平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)	(平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)
営業活動による キャッシュ・フロー	119,386	172,227
投資活動による キャッシュ・フロー	△69,069	△114,327
財務活動による キャッシュ・フロー	△52,579	△8,310
現金及び現金同等物に 係る換算差額	△3,208	546
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△5,471	50,136
現金及び現金同等物の 期首残高	316,464	310,993
非連結子会社との 合併に伴う 現金及び現金同等物の 増加額	—	37
現金及び現金同等物の 期末残高	310,993	361,167

営業利益は前年度と比べ 37億円の増加

市場措置関連費用や販売費用の増加がありました。台数・車種構成等の改善やコスト低減などにより、前年度の637億円から37億円増の674億円となりました。

当期純利益は 141億円の増加

経常利益は、為替差益などの営業外損益プラス265億円を加え939億円となりました。NedCar株式売却損で247億円計上したものの、当期純利益は141億円増の380億円となりました。

純資産は 856億円の増加

当期利益を380億円計上したことに加え、期末為替レートの変動により評価・換算差額等が454億円増加したことなどで856億円増加し、3,512億円となりました。

財務諸表(単独・要旨)

□ 貸借対照表

(百万円)

科 目	前年度末 (平成24年3月31日現在)	当年度末 (平成25年3月31日現在)
(資産の部)		
流動資産	512,477	545,774
固定資産	461,216	436,643
資産合計	973,693	982,418
(負債の部)		
流動負債	584,487	631,288
固定負債	250,315	180,340
負債合計	834,803	811,629
(純資産の部)		
株主資本	127,206	165,701
評価・換算差額等	11,683	5,088
純資産合計	138,890	170,789
負債純資産合計	973,693	982,418

□ 損益計算書

(百万円)

科 目	前年度 (平成23年4月1日から 平成24年3月31日まで)	当年度 (平成24年4月1日から 平成25年3月31日まで)
売上高	1,427,599	1,383,389
売上総利益	148,964	159,872
営業利益	15,137	14,771
経常利益	19,642	75,290
税引前当期純利益	19,384	40,795
当期純利益	20,930	38,696

三菱自動車ウェブサイト投資家情報ページ

http://www.mitsubishi-motors.com/publish/ir_jp/index.html

決算情報やプレスリリースなど、IRに関する情報をタイムリーにお届けするIRニュースメールの配信サービスを行っております。
ぜひご活用ください。



OUTLINE

会社の概要 (平成25年3月31日現在)

社 名 三菱自動車工業株式会社
 本 社 〒108-8410
 東京都港区芝五丁目33番8号
 TEL: 03-3456-1111(大代表)
 設 立 昭和45年4月22日
 従業員数 連結: 29,822名
 単独: 12,773名
 資 本 金 657,355,059,926円

発行可能株式総数 9,961,597,000株
 (内訳) 普通株式 9,958,285,000株
 A種優先株式 438,000株
 B種優先株式 374,000株
 C種優先株式 500,000株
 D種優先株式 500,000株
 E種優先株式 500,000株
 F種優先株式 500,000株
 G種優先株式 500,000株

発行済株式総数 6,081,296,723株
 (内訳) 普通株式 6,080,900,530株
 A種優先株式 57,600株
 G種優先株式 338,593株
 株主数 普通株式 356,343名
 A種優先株式 4名
 G種優先株式 4名

役員 (平成25年6月25日現在)

取締役	西岡 喬*	取締役会長(三菱重工工業株式会社相談役)	監査役	木村 英生	監査役(常勤)
	益子 修*	取締役社長		福田滝太郎	監査役(常勤)
	市川 秀*	取締役副社長		三木 繁光	監査役(株式会社三菱東京UFJ銀行特別顧問)
	春成 敬*	取締役副社長		岡本 行夫	監査役(株式会社岡本アソシエイツ代表取締役)
	上杉 雅勇*	取締役副社長		野島 龍彦	監査役(三菱重工工業株式会社取締役常務執行役員)
	相川 哲郎	常務取締役			
	青砥 修一	常務取締役			
	中尾 龍吾	常務取締役			
	服部 俊彦	取締役			
	泉澤 清次	取締役			
	佐々木幹夫	取締役(三菱商事株式会社相談役)			
	矢嶋 英敏	取締役(株式会社島津製作所相談役)			
	坂本 春生	取締役(公益社団法人 日本ファシリティ マネジメント協会会長)			

- 注) 1. *印は当社における代表取締役を示しています。
2. 取締役 佐々木幹夫氏、矢嶋英敏氏および坂本春生氏は、会社法第2条第15号に定める社外取締役です。
3. 監査役 三木繁光氏、岡本行夫氏および野島龍彦氏は、会社法第2条第16号に定める社外監査役です。

株式手続のご案内 (平成25年3月31日現在)

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会開催時期	毎年6月
同総会議決権行使株主確定日	3月31日
期末配当金支払株主確定日	3月31日
中間配当金支払株主確定日	9月30日
その他の基準日	上記のほか必要のある場合は、取締役会の決議によりあらかじめ公告して設定します。
公告の方法	電子公告により行います。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が生じたときは東京都内において発行する日本経済新聞に掲載して行います。 (公告掲載アドレス) http://www.mitsubishi-motors.com/jp/corporate/ir/stockinfo/koukoku.html
1単元の株式数	普通株式は1,000株 優先株式は1株
証券コード	7211
株主名簿管理人・特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
郵便物送付先・電話照会先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL:0120-232-711(フリーダイヤル)

※住所変更、単元未満株式買取請求、その他各種お手続き等のご請求について

- 証券会社等の口座をご利用の場合…お取引の証券会社等にお問合せください。
- 「特別口座」に記録されている場合…三菱UFJ信託銀行株式会社(TEL:0120-232-711)にお問合せください。

三菱自動車からのお知らせ

三菱自動車工業株式会社 平成24年度(2012年度)のご報告
広報部 平成25年6月発行 〒108-8410 東京都港区芝五丁目33番3号
TEL:03-3456-1111(大代表) <http://www.mitsubishi-motors.com/jp/>



表紙のイラストの中にはクマが隠れています。探してみてくださいね。

表紙：三菱自動車 デザイン部 熊谷周作

